



# 「国際観光立県を目指して」



日時

**2006年11月25日(土)**

午後1時30分～5時00分(受付開始:午後1時～)

場所

**カレッジプラザ講堂**

(明徳館ビル2階 秋田市中通2丁目1-52)

**入場  
無料**  
(定員200名)

趣旨

国際教養大学は地域貢献の一環として、2005年度から「秋田県の国際観光のあり方」について共同研究チームを編成し、様々な角度から調査研究(県国際交流協会受託研究)を続けてきました。

秋田は全国でも有数の美しい自然、豊かな天然資源、生活に根ざした伝統行事や祭礼、多彩な芸能文化に恵まれています。本学研究チームは、そうした「観光資源の宝庫」をいかに活用すべきか、これまでの研究成果を踏まえ今回の公開講座で具体的に提案いたします。

プログラム

あいさつ ..... 学長 中嶋嶺雄

第1部

### 調査研究の結果報告

(1)「エコ・アドベンチャー・ツーリズムの開発」マーク・カニングハム

エコツーリズム、特にサイクリングやカヌーなどのスポーツと温泉などの保養施設の整備状況と関係者の意識調査を踏まえて、エコツーリズムの実態を分析する。

(2)「韓国人スキー客の誘客」加藤清孝

田沢湖スキー場を訪れた韓国人スキー客に実施したインタビューを基に、韓国からのスキー客誘客について考える。

(3)「韓国人大学生の意識調査」勝又美智雄

ソウル、釜山の大学生に実施した意識調査を基に、韓国大学生の秋田県訪問ニーズについて分析する。

(4)「台湾人観光客の誘致」葉聰明、山崎直也

台湾における現地調査を基に、台湾からの誘客について探る。

(5)「田沢湖畔観光施設の活用」マーチン・シュローダー

外国人にとって魅力的な田沢湖周辺施設の効果的な活用について提案する。

(6)「古民家の再生活用」ドン・ニルソン

県内各地に見られる古民家の活用について考える。

第2部

### パネル討論、質疑応答

「秋田に期待できること」(パネリストは第1部報告者)

■ コーディネーター  
研究班主査・勝又美智雄

\* 第1部、第2部とも逐次通訳あり